

ちよつとそしつまで

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩



季節は初夏。山の緑も濃くなり、梅雨が明けると本格的な夏が到来します。今回の散歩は福田地区。出会った人たちの、それぞれの生き方に触れて、胸が熱くなる話を聞いてきました。

夫74歳、妻94歳 年齢差20歳の夫婦

福田地区の中でも、福原(川内田)地区は懐かしい日本の原風景が残る場所です。のどかな風景が広がり、夏には赤井川にホタルが舞います。

熊本地震後に宇土市からこの地に移住した夫婦がいます。夫の寺尾勇さん(74)と妻の直子さん(94)は、年齢差20歳というカップルです。二人の出会いには11年前。話せば長くなりますが、まずはそれぞれの人生を振り返ります。

昭和3(1928)年に岐阜県で生まれ、東京で育った直子さんは成城に暮らす深窓の令嬢でした。軽井沢に別荘があり、父親は日本テニス協会会長を務めた人物。「上皇后陛下の美智子さまと、テニスをご一緒したこともございますのよ」と話す上品な言葉使いに育ちの良さが伝わります。

20代で外交官の妻になった直子さんは、3人の娘を育てながら社会間



川内田の寺尾さんの自宅前に広がる地区の景色

題に興味を持ち、渡米して文化人類学の博士号を取得。夫と死別してからも政財界人と交流を持ちながら、世界各国を巡り文化交流や奉仕に尽力し、その活動は80歳近くまで続きました。

一方の勇さんは昭和22(1947)年に宇土市に生まれました。地元での農業高校卒業後、農業に従事しながら結婚し2人の子どもに恵まれます。40歳の時に単身アフリカのタンザニアに渡り、ボランティアで日本の稲作を指導。15年ほど滞在した勇さんは、妻の病気が発覚し帰国しました。妻の最期をみとった勇さんは



上/「直子さん」「勇さん」と呼び合う仲の良い寺尾さん夫婦

左/直子さんが取得した、文化人類学の博士号の証明書



ピアノ演奏を聴かせてくれた直子さん

